

学期	月	学習のアドバイス	
前期	4	<p>●授業が入試に直結します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日の学習時間の3分の2は授業です。「学校の授業で受験勉強をする」という発想が大切です。笠岡高校では、入試対応の授業を行っています。つまり、授業（教科書、副教材、ノート）が最善の参考書となります。 ・予習は、知識を整理し、それを使いこなす力や思考力が必要であり、そのまま入試のシミュレーションとなります。 ・復習は既習事項を整理し、必要に応じて使いこなせるようにすることで、「知識の定着＝点数向上」となります。 ・「予習→授業→復習→定期考査→実力テスト・校外模試に向けての学習」のサイクルが、受験勉強です。 	
	5	<p>●定期考査の高得点力が実力テスト・校外模試の得点力につながります</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査で高3の学習を消化することが、そのまま入試準備になります。 ・「予習→授業→復習→定期考査準備」を通じて基礎学力がつき、共通テストのための得点力がつきます。 ・学力向上は、まず定期考査、小テストの得点にあらわれ、やがて実力テスト・校外模試の得点アップとなってあらわれます。焦らず確実に取り組もう。 <p>●志望理由を明確化することが大切です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志望理由書を作成する中で、大学進学後のイメージをつくり、学習目的をはっきりさせよう。 	
	6	<p>●実力テスト・校外模試の「準備→受験→復習」で、入試実践力がついていきます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実力テスト・校外模試は受験勉強の節目です。実力テスト・校外模試は弱点発見に使うものであり、「テストを復習しないものに次のテストを受ける資格はない」とさえ言えます。 （模試の目的） ①志望校に合格するための学力と自己の学力の差を知る ②弱点分野を発見する ③入試動向などの情報収集をする ④入試問題に慣れる 	
	7	<p>●学習計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに入っても、補習や課題などで、自主的な学習時間は意外に足りないものです。 ・「最低限これだけは絶対にやる」ことを決め、実行計画を立て、それを成し遂げよう。 <p>●基礎固めをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは基礎固めです。この夏休みに基礎を固めなければ、秋以降の入試問題演習に影響が出ます。 ・弱点克服と基礎力完成が、夏の最大のテーマとなります。 	
	8	<p>●受験勉強の折り返し地点です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「残された時間」の有効活用が合格を決めます。そのポイントは、志望校に合格するためには、いつまでに何を、どこまでやるかを見定めるビジョンを持つことです。 ・志望校の過去問を調べて出題傾向を探り、受験勉強の方針を明確にするのも、この時期に必要なことです。 <p>●規則正しい生活で、学習の質、時間を確保しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の自習室や図書館など、集中力を維持できる場、ともに頑張る仲間がいる場で勉強しよう。 	
	9	<p>●学習の優先順位を決定しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストまで約130日、私大入試まで約150日、入試まで限られた時間をどれだけ効果的に使うかがますます重要になっていきます。過去問から見た入試傾向が、学習の優先順位付けの基本になります。 ・「できるところ」と「できないところ」をはっきりさせ、漠然と覚えていることや理解していることを確実に理解できるように学習計画を立てよう。 ・問題演習による実践力養成を通じ、基礎の確認と応用力の伸長を図ろう。 	
	後期	10	<p>●やるべきことを重点化しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試傾向や可否への影響度を基準に「今やらねばならないこと」を明確にして学習計画を立てよう。 <p>●実力テスト・校外模試は弱点発見の手段として利用しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実力テスト・校外模試で弱点を発見して学習計画に組み込み、志望校突破を意識した学習をしよう。 <p>●過去問を活用した学習をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去問を解き、傾向を知り、知識を整理し理解を深め、対策学習に発展させれば、大変効率よい学習となります。
		11	<p>●実力テスト・校外模試の復習が追い込み学習に効果を発揮します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで数多くのテストを受験してきました。テスト問題は一定時間集中力を持って取り組んだ問題なので、印象が深く、頭に残りやすい傾向があります。 ・実力テスト・校外模試で間違った問題、できなかった問題にこそ宝は眠っています。これを復習すれば、追い込み期の弱点克服と学力向上に直結します。テスト問題の解き直しの時間を確保しよう。 ・学力を入試問題で得点化する。答案作成力を磨くのも追い込み学習です。
		12	<p>●直前の追い込み期は、最後まで伸び続けます</p> <ol style="list-style-type: none"> ①信じること・・・絶対に合格できると信じる。 ②基本に立ち返り繰り返すこと・・・新しいものに手を出さず、今あるものを確実にする。 ③最後まで続けること・・・最後の最後まであきらめず、がんばり抜く。 <p>●共通テストは、これからの追い込みでさらに得点がアップします</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの時間に合わせて問題を解き、間違った問題に再トライして解けるようにしましょう。
1		<p>●共通テスト後、すぐに早く2次・私大対策に切りかえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストで終わりではありません。共通テスト後、前期日程の2次試験まで30日以上あります。共通テスト後すぐに気持ちを切り替えて、2次試験・私大入試に向けて計画を立てて取り組もう。 ・この30日間で急激な学力向上があるので、切り替えの早さと取り組み方で合否が分かります。 <p>●過去問を軸にした学習が、直前の受験勉強です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去5年分は取り組もう。先生に添削をしてもらい、採点者からみた答案作成力の養成を図ろう。 	
2		<p>●併願大の入試を通じて、実戦力養成をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試準備→受験→復習→次への準備→・・・と受験していく中で力をつけよう。特別授業や個別指導を軸にして受験校の過去問や入試問題に取り組み、最終目標である本命校への準備を一貫して行っていこう。 <p>●現役は、最後の最後まで伸び続けます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後ろを振り向かず、たとえ入試の1日目ができなくても、2日目に全力を注ぎ、前期が終了すれば直ちに中期・後期日程に気持ちを切り替えて臨んでいこう。現役生は最後まで実力が伸び続けます。粘り強く頑張ろう。 	
3	<p>●後期日程まで頑張ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格意欲を持続しよう。後期日程は、入試終了まで難易度がどうなるか分からない入試です。前期日程合格者、欠席者が多くいて、実質倍率は低いことが多いです。後期日程は大逆転合格の確率が高い入試です。 ・後期日程入試は小論文入試など科目数が少ない。前期日程終了後の2週間やり抜けば、かなりの力がつきます。最後に栄冠を勝ち取る人は、最後まで努力を続けた人なのです。 		